

第4回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日 時 平成23年10月27日（木） 18:30～20:15
2. 会 場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 田中座長、藤永委員、服部委員、和田委員、清水委員、菅野委員、尾崎委員、河西委員、渡辺委員、中山委員、深川委員（計11名）
4. 事務局 網走市：嶋田企画総務部参事、日野主事
大空町：山本総務課参事、福原主査

開 会

【事務局】皆さん、こんばんは。まだお見えになっていない方もいらっしゃいますが、定刻になりましたので、ただ今より第4回懇談会を開催いたします。

本日は5名の委員の方から、欠席の報告を受けております。これからの議事の進行は田中座長にお願いいたします。

議 事

【座 長】皆さん、こんばんは。

今日は共生ビジョンができて、その後のことについて、事務局から説明を受けたいと思います。パブリックコメントも実施されているので、それも併せて事務局から説明をお願いします。

【事務局】はじめに、定住自立圏共生ビジョン素案に対するパブリックコメントの実施結果についてご報告いたします。

ビジョン素案によりまして、広く住民から意見を公募するパブリックコメントを、8月1日から8月31までの1ヵ月間実施しましたところ、大空町在住の1名の方からご意見が1件寄せられましたので、ご報告いたします。事前に送付しております「資料1」をご覧ください。

ご意見の内容は、「社会教育施設相互利用事業」の「図書館の相互利用を促進する」という記述に関して、「数年前の話ですが、網走市の図書館では、市民以外は図書等を借りることができなかったもので、大空町民も借りられるようにしていただきたい」という主旨でありました。こちらについては、5年ほど前に図書貸出の取扱いを変更しておりまして、オホーツク管内の住民の方であれば、網走市の図書館から図書や資料等の貸出を受けることができるようになっておりまして、ビジョン素案の変更を伴うご意見ではありませんでした。

その他、ビジョン素案に対する提言等のご意見はありませんでしたので、ご報告い

たします。

続きまして、「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン」を策定しましたので、ご報告いたします。委員の皆さまのご協力のもと、予定どおり9月中にビジョンを策定することができました。心より感謝申し上げます。策定したビジョンについては、9月26日付けで、総務大臣並びに北海道知事あてに提出いたしました。

前回の懇談会でお配りした「たたき台」から、文言修正等の軽微なものを除き、変更点が1件ありますので、ご説明いたします。ビジョンの35ページ、共生ビジョン事業一覧をご覧ください。35ページの2番「救急医療体制の維持・確保対策事業」の最後の事業になります、大空町の「網走地区救急医療対策事業」予算額2,142千円が追加になっております。この事業は、9月に斜網地区5市町の救急医療体制が確立されたことに伴う大空町の負担金でありまして、大空町の9月議会において、補正予算が議決されたことから、今回追加したものであります。これによりまして、20ページの具体的取組の事業費も、これに併せて変更しております。以上でございます。

【座長】今、事務局からパブリックコメントについて報告がありました。寄せられた意見が1件。もうちょっと多いのかと思ったけど、関心がないから少ないのか、そこから辺り聞きたいところですが。

これと併せてビジョンの変更についてですが、この2点について、補足なり確認なり質問なり、ございましたらどうぞ。いかがでしょうか？事業費が2,142千円、当初より増えたということですね。

よろしいですか？それでは、2点目の今後の懇談会の進め方について、事務局から説明願います。

【事務局】今後の懇談会の進め方について、ご説明いたします。

以前にもお話をしておりますが、来年度以降の懇談会は、4月と10月を目途に、年2回の開催を予定しております。

これまでの懇談会で皆様から寄せられたご意見については、両市町の担当課長による協議を行い、本日お配りしております「資料2」のとおり、両市町の考え方を整理しておりますが、案件によっては継続協議のものもあります。また、本日の懇談会で出されたご意見についても、来年度のビジョン見直しに向けて、両市町で協議していくこととなります。これらの協議結果の内容によっては、協定を変更する場合も出てきます。その場合は、3月議会での協定変更の議決に向けて、作業を進めることとなりますので、4月開催予定の懇談会は、6月にずれ込むことも予想されます。その際の懇談会では、新年度予算の反映状況や協定の変更内容についてご報告し、ビジョン見直しの「たたき台」に対して、皆様からご意見をいただきたいと考えております。

10月開催の懇談会の開催内容については、今回と同様の形になろうかと考えてお

ります。以上でございます。

【座長】ありがとうございます。このビジョンについては、網走市と大空町の両市町が協定に基づいて実施していくこととなりますので、当然のことながらビジョンの見直しということになりましたら、協定のほうもその分を変更する必要が出てくることとなります。

今の説明では、来年4月を目途に検討会議が行われて、そこで見直しの必要が出てくる可能性もあると。見直しの意見が出てくるということですか？

【事務局】先日、担当課長の検討会議をやりましたが、その時点での考え方を資料2として、本日お配りしておりますけれども、継続協議の部分はかなりございます。来年度のビジョン見直しに向けて、そういった継続協議を今後も続けていって、来年度の予算要求に反映できるものは反映していくという形で、協議を継続していく形になります。

協定書にない取組を新たに取り組むといった場合には、議会の議決を得ることとなりますので、その場合は、3月議会で議決をもらう形で作業を進めていくこととなります。3月議会で議決を受けて、ビジョンの具体的な見直し作業に入りますので、見直しのたたき台を4月の懇談会に間に合わせるのはスケジュール的に難しいので、その場合は、4月開催予定の懇談会を6月にずれ込ませて、その間にビジョン見直しのたたき台を作成したいと考えております。

【座長】分かりました。今日、委員の皆さんにお渡ししている資料2は、懇談会で出た意見を左側に整理して、それに対して網走市と大空町、双方の考え方がまとめられていることとなります。

これは今日、資料としてお渡ししているものですから、今渡されて「どうか？」と言われても、なかなか難しいと思いますけれど。

今後の進め方にも関わりますけれど、今後これが非常に重要になってくると思うんですね。今日はこれに基づいて、どうのこうのということではなくして、よくご覧になっていただいて、4月もしくは6月になる懇談会の時に、これらに対してのご意見等を整理して（今日はこういった道具を皆さんにお渡しして、これで整理をして）いただくことになろうかと思えます。もどかしい気もしないでもないんですけど、本来の懇談会の議論というのは、4月もしくは6月の懇談会で活発にやっていけるのではないかと思いますけれど。

この「意見等要旨及び考え方」について、簡単に説明してもらえますか。

【事務局】「意見等要旨及び考え方」についてですけれども、これまでの3回にわたる懇談会でいただきましたご意見につきましては、1番から3ページの43番まで、分野的には医療、広域観光、教育、環境、福祉、産業振興、地域公共交通、人材育成、その他といった形で、分野別になっておりまして、皆さんからいただいたご意見に対

して、両市町で協議した「現時点での考え方」ということで掲載しております。

4ページにつきましては、大空町の議会で定住自立圏に関する特別委員会を設けておりまして、議員さんからビジョン見直しに関わる部分についてのご意見を拾い上げた形で整理しております。それに対する両市町の考え方を整理したものを掲載しております。

最後に49番と50番は、網走市総務文教委員会で出された意見に対しての考え方ということで整理しております。

項目が50項目にわたっておりますので、全項目について説明するのは時間がかかり過ぎるものですから、個別の説明は省略させていただきます。

ここには掲載されていない部分で、例えば防災の分野については、これまで特に意見等はいただけていませんでしたが、ビジョンの具体的取組にも載せていますが、両市町で今後の協力・連携に向けて協議をしていくということで、先日の検討会議で考え方がまとまりましたので、今後具体的な協力・連携内容をお示しできるようになると考えております。

また、産業振興の分野で、農業関係が現在のビジョンには、あるいは協定の方にも項目がない訳であります。両市町の農業担当課長間で協議をした中では、とりあえず行政間で連携が図れる事業がないかということ、今後協議をしてきたいと考えております。

ご意見の中には、「懇談会の委員に農業関係の方が入っていないのはおかしいのではないか」といったご意見もありまして、ただ、具体的な農業の取組がない中で、農協さんなりに懇談会に参画いただくというのは、なかなか難しい部分もあるのかなということで、とりあえず現時点では行政間で何か取り組める事業がないかといったことを協議していきたいということになっております。以上でございます。

【座長】今の説明では2点ほどポイントがあって、一つ目は、防災の問題で、懇談会ではあまり議論されていなくて、それから農業はビジョンの中にも盛り込まれていないということで、本来なら農業はこの地域の主産業でありますけれど、今後、やっぱり重要になってくるとか、連携して進めていこうということが出てくるのではないかということです。特に今、農商工連携とっていいのか、6次産業化とっていいのか、そういった動きが日本全国で進んでいる中で、様々な産業分野と農業との連携等も、当然これは進んでこざるを得ない。そうすると両市町の様々な分野の連携といったことも当然具体的に必要になってくる。そういった時に、このビジョンにどういう形で盛り込んでいくかといったことも、この懇談会では大いに議論すべき点ではないかと思います。

いかがでしょうか？今までの事務局の説明で、特に質問したい点とかございましたら、ざっくばらんに言っていただければと思います。

【委員】定住自立圏のここで挙げた事業と、網走市と大空町の次年度の事業を計画する時に、この意見をどう反映していくか、どう取り入れていくかということが（組み入れられるか入れられないかということが）、非常に難しくなるだろうと思います。そのあたりをどのように考えているか？「定住圏」という事業名を入れながら、はっきりさせるのか、あるいは、今までのように事業計画をそれぞれ組んでいくのか、確認したいと思います。

もう一つは、明年度に2回程度この懇談会を開催したいということですが、我々はそれぞれ団体代表で出てきています。来年度に改選時期もそれぞれ職によってはあるのではないかと思いますけど、そのあたりは（委嘱を）継続するのか、あるいは団体の任期で終わらせて、この懇談会を継続するのか、そのあたりの考え方をお聞かせいただきたいと思います。

【事務局】1点目の事業の関係ですけど、新たに取り組むようになった事業については、定住自立圏のビジョンの取組の中で、「こういった事業をやります」ということで、非常に分かりやすく良いのではないかと思いますけれど、既存の事業で連携を図っていく部分については、なかなか外向きには定住圏を意識させるのは難しいのかなと思いますけど、そこは何とか圏域住民に分かるような形での発信をしていきたいとは考えております。

2点目の委員の任期の関係ですけど、皆さんの任期は25年3月までということで、今回ご就任を依頼した際には、関係団体からの推薦ということをお願いしておりますけど、一旦委員にご就任いただいた任期は2年間あると考えております。ただ、役職を辞めて、こういった会議に出るのは都合が悪いという状況になれば、出身団体の後任の方に引き続きご就任いただければと考えております。特に明確な取り決めはありません。

【座長】基本的には、現在の委員が2年間の任期を全うするというので、その間、委員が所属されている組織で役職変更とかそういったことがあった時は、それをどうするかという定めは特にないと。ただ、この懇談会では就任いただいた委員に任期を全うしていただくというのが基本姿勢だということでもあります。

その他にいかがでしょうか？

【委員】確認の意味で良いですか？今回出された共生ビジョンについては、3回（の懇談会を）やって作りましたということで、完成品ということで考えて良い訳ですね？

【事務局】今お手元にあるのが、総務省と知事に提出したものです。

【委員】来年以降、2回（の懇談会で）見直しを進める中で、変更事項があれば、ここで協議をして進めていくということで、今後進んでいくと。今の委員は2年の任期になっているけども、団体の役職が替わった時は、交代して出てくるということで、この事業を5年間進めていきますよと。これは23年度を含めて5年間で良いんです

ね？この1冊が我々のビジョンとして、定住自立圏ということで進んでいくということ
とで良いんですね？

【座長】タイムリミットが厳格に決まっている訳でないでしょうけど、9月ぐらい
までには提出しなければならないということで、予算のこともありますので、取りあ
えず作って提示をしたということで。だから完成品だということではなくて、取りあ
えず暫定的に出したということで、この懇談会で修正すべき点とか、もっと改善すべ
き点とか、更には付け加えなければいけない点を、今後の懇談会でやっていくとい
うことです。

【事務局】基本的には今、座長が仰ったとおりですけども、考え方として、今皆さん
のお手元にあるビジョンは、23年度のビジョンというふうに考えていただければ分
かりやすいのかなと。今度は、来年度に向けて24年度版のビジョンを作るにあつ
て、また皆様のご意見をいただいていくということで、来年度のビジョンについ
ては、この23年度版が基となって、これをブラッシュアップしていくというか、これ
を加除・修正していくようなイメージでいただけると分かりやすいのかなと思
います。

【座長】基本的には事業予算が27年度まで付いていますので。取りあえず今「2
3年度版」という言い方をしましたけど、これは皆様のご意見をいただきながら。
ちょっと委員の皆さんには、欲求不満の部分も確かにあったと思いますけど、私自身
も含めまして。何のために集められて「意見を言え」と言っているのかという気持ち
も充分に分かります。取りあえず23年度版を出したと。これをベースにして、別に
全く全否定しても良いですけど、取りあえずは一応これをベースにして、加除的に修
正しながら、より完成度の高いものにしていくことになっていこうかと思
います。

【委員】簡単に言うと、このビジョンをもって、両市町が予算を如何に確保して進
んでいくかということですよ。

【事務局】そうですね、ビジョンの理念をもとに、如何に予算を獲得していくかとい
うことになろうかと思
いますけど。

ビジョンの事業一覧については、予算付けされたものしか載せられませんので、そ
の辺の理念を訴えていくしかないのかなと思
います。

【委員】これを確保するビジョンをきちっと持って進んでいくということですよ
ね？

【座長】そうです。両市町の協定があつたり、あとは両市町の議会承認ということ
も前提になりますので。

【委員】議会で承認されないと、予算も付くことになりませんから、そういう意味
ではたたき台というか。

【座長】事務局のほうから、行政側からの要請の発言ですから、どうしても大きな

変更があると、協定の変更もしなければならない。協定の変更をすれば、議会にも通さなければならない。厄介な話だ。そういう危惧というのは、確かに（ある）。行政マンは言わないでしょうけど、何となくそういう気持ちが強いのではないかと思うんですけど。怒られるかもしれませんが。我々、委員の立場からすれば、ビジョンを作らなければいけない訳ですから、そういう議会とか協定とか関係ないとは言いませんけど、あまりそういうことを前提に考えていると意見も出しづらくなるし、好きなことも言えなくなると。通るか通らないかは、懇談会というのは正に懇談をするということですので、大いに思っていることは全部仰っていただいて、それが果たして成案になるのかどうかというのは、議論の結果ということになるろうかと思います。いかがでしょう、他に？

ある意味では、余計なことを言うようですけど、私は、これからが本当の議論だろうと（思います）。我々、この懇談会の委員各位は、取りあえず23年版を作らなければいけないということに、自分自身、お一人おひとりの気持ちをかなり抑えながら協力をしていただいているということで、その分、次年度のビジョンについては、大いにロマンを含めながら語っていただきたい。ロマンどころじゃないですね。今回の大震災を見ていると、地域産業全般にわたって本当に活性化しないと、どうにもならないような状況ですので、やっぱり我々もそういったことを頭の中に想定しながら、より良いビジョンを作っていくと。そのために各皆さん方の組織、団体等を代表してお見えになっていらっしゃる訳ですから、忌憚ない意見をどんどん出していただくことが、今後の重要な課題になっていくのではないかと思います。いかがでしょう、他にご意見はございませんか？

商工会とか商工会議所は、これからのもの凄く大変なポジションになっていくのではないですか？今までも充分重要なんですけど、今後更に（重要になる）という観点から、何かございませんか？

【委員】23年度版は、これはこれで一応完成を見たということで、あとは次年度に何か具体的な取組を、この中に盛り込むようなことを、私共内部でこれから協議したいなと思っております。

【委員】私はちょっと飛躍してしまうんですけど、いずれにしても定住自立圏の基本的な理念といいますか、これが恐らく近い将来、単独で生きていけなくなる時代がくるかもしれない。その布石になれば良いのかなと思っています。これはちょっと離れてしまいますけど。

【座長】でも、基本は仰るとおりです。

特に今回、23年度版を含めまして、喫緊の課題のような状況になっているのが、やっぱり医療の関係だろうと思いますけど。これから更にまだ課題が山積しているという意味では、このビジョンを大いに充実させていかなければならないということが

あります。何かご意見があれば。

【委員】資料2の両市町の考え方で気になる場所があったんですけど。3番目の両市町の考え方の中の「救急医療体制が確立された」という言葉が使われているんですけど、確立というより、本当の意味で今からスタートしたということなんですね。土台を作ったということであって、住民と医療機関と自治体が、これからいろんな努力をやっていかないといけない、そのスタートの制度を作ったということであって、「これで確立したから、あとは丸投げだ」ということになると、それこそあれ（本末転倒）なんですよ。

それと4番の「市町村は医療機関への行政指導等を行える立場になく」ということで、私はここで発言した「いろんな住民たちからの要望なり不満もあるだろう。それを医療機関側にも届けて欲しい」というのは、それも「行政指導でして欲しい」なんて、そんなことを思っているのではなくて、日常の命云々ということの中の、いろんな意見・情報を共有し合おうという意味の意見を書いたんであって。「行政指導の権限がないから、市町は関係ありません」というような形で、「それは保健所の立場です」というような形で逃げられると、まとまるものもまとまっていけないということなんですよ。だから「確立」ということでなくて、これが「土台」となって、これからスタートして築き上げるということ。それから市町村も積極的に、この医療体制の安定化に努力するというようなことで、捉えていただきたいと思います。

【座長】（事務局に対して）その点は、よろしく願いいたします。もちろんこれは医療分野だけではなくして、観光も各産業も、全部同じようなことだろうと思うんですよ。行政の側からすれば、別に逃げているつもりはないんでしょうけど、正確に、一応どういう関係性があるって、どういう位置付けかということをやっているんですよ。気構えとしては、「全部我々は関わっていきますよ」という気持ちを持っていただきたいというのが、やっぱり関係各位の強い気持ちなものですから。責任を問うなんてことは言いませんので、とにかく厚く関わっていただきたいということです。

他にいかがですか？福祉は今後非常に重要な状況になってきていますけれど、国が今、福祉に対して非常に不安定な、私は非常に不安を持っているんですけど。あと何年かしたら、私も年金とか介護にお世話になるほうだと思いますので。そういった意味では本当は国が当然しっかりしないといけないんですけど、そういった当てにならないような部分について、ご苦労なんですけれども、それに関わる地域の、現場の皆さん方の活動、熱意といったものが非常に期待される場所で、それをどう地元の行政が手強くサポートしていくのかというようなことも重要になってくるかと思うんですが、いかがでしょうか？

【委員】この計画そのものは、2つの町が連携し合って、定住の促進につなげていこうということですから、それに必要な事業を考えなくてはならない訳ですけど。

福祉のことに限って言えば、それぞれの町がやるべきことはたくさんあると思うんですけど、それを広域的に連携して何ができるのかといった時に、あまりないような気がちょっとするんですよね。それぞれのところで福祉の政策をやるんですけど。隣の町と一緒にやらなかったら、効率的にできないとか、効果が薄いかいというのが（あまり見当たらない）。特に私、社会福祉協議会の立場から言えば、あまり見当たらないというか、そういう感じを持っているんですよね。福祉に関してはですね。

例えば、子育てサポートセンターですとか保育所の広域入所については、連携してやったほうが良い場合があるかもしれませんが。それ以外の部分はどうも、いろいろ考えているんですけど、思い付かないという状況です。

【委員】私のところも同じような考え。やれることは既に連携しているんですよね。今日の資料2を見て感じたのは、大空町のほうからは、地域の足の問題が結構出ているんですけども、網走のほうからは意外と出ていない。農村地域に高齢者がいて、そういう要望が本当に出ていないのだろうかという思いがありますし、先ほど委員が仰っていたように、やっぱり福祉的に言うと、そこそこの持ち味があるから、地域性でレベルアップを図っていくことによって、お互いに協力できるところで協力をしていく。初めから連携よりも、まず、お互いの地域の中でどれだけ頑張れるかということが、一番当面する課題なのではないかなと思っています。

【委員】それに関しては、人材育成なんかの研修会というのを、それぞれの町でやると、人の集まりも若干少ないというところもあって、広域的にやったほうが、専門家を呼ぶ場合も、安上がりに上がって、そういう側面はあるかもしれませんが、直接的に、例えば介護の事業にしても施設の入所でも、広域的に隣の町からみんな集まって、網走の施設に通うとか隣の施設に通うというのは、そういう面では、あまり現実的でないような気がします。

【委員】実際には、特別養護老人ホームとかいろんな施設も、その町にある施設ではないですから、入所は初めから広域的配慮が当然されていますし、障がい者の施設でいっても、部門を特化して施設を運営していきますから、当然広域で連携していないと、その事業も成り立たなくなりますので、施設を設置した時から連携がされていて、スタートしていますので、そういう意味では、今からというのは非常に馴染み込まない部分があるのではないのかなと思います。

【座長】一番大事なことだと思うんですけど、それも福祉だけでなく各分野で、現場で従事されている方々というのは、意外と行政がシステムを作る時に見落とすとか見えない部分があるので、案外そこらあたりが非効率であったりとか、もしくは成果があまり期待できない。当然成果が期待できないシステムを作ろうと思って作っている訳ではないんですけど、結果としてそれが出ない。そうすると、どうしてだろうかとか、妙な不信感とかポテンシャルが下がってしまうというところがあって、それ

をカバーしていくのは、各現場の関わっている方々の率直な意見ですよ。それがどんどんこちらのほうに上がってこない、やっぱり見えない部分もあるかと思うんですよ。だから前にも私言いましたけど、ある意味、情報の対称性というのは凄く重要になってくるんじゃないかと。行政ばかりが情報を出して、それはもちろん大事なんですけど、反対側から、我々の側からの情報も対称的に出てこない、成果の上がるものは、なかなか厳しいのではないのかなと感じはしますけど。

この懇談会とか、こういうビジョンを作るといのは、目的はもう言うまでもなく、本当により良いまちを広域で協力をしながら作っていく。それは何のためかと言ったら、そこに住む住民、もっと言うならば、子どもたちが将来このまち、地域を担って立っていく訳ですから、その子どもたちにどれだけ良い形で手渡せるのかというような思いで作っていくということが重要になっていくんじゃないかと。何でそういうことを言うのかというと、先日ギリシャの哲学書を読んでいたら、国家都市を作ったアテネの誓約書が出てきて、日本語に翻訳されていたんですけど、「今住んでいるまちを、より良く次世代に渡していくために、私たちは命をかけて戦うんだ」というようなことを、戦争でないですけど、改善していくべき事柄を、命をかけて良くしていこうという誓約書があるんですね。是非はともかくとして、やっぱり良いまちづくりをするというのは、一人ひとりの人たちが、本当にどれだけ強く意識を持つのかというのが、凄く大事になっていくのではないかと思ったものですから。そういう意味では、子どもたちだけではなくして、これから分からない部分も教育していかなければならないし、更にいろんな分野での教育も必要になってくる。そういう意味で、社会教育というのはもの凄く重要になってくるんですけども。いかがですか？

【委員】この懇談会の中で意見が出ているのですが、医療にしろ福祉にしろ教育にしろ観光商工にしろ、全て交通網なんですよ。大空町と網走市の中で総合的に交通網の全体をもう一回見直さないと、定住にそぐわないのではないのかなと思うんです。

我々、社会教育のほうについては、本当に網走市にお世話になって、殆んどのはできているですよ。あとはそれを具現化していく、あるいはもっと積極的にやっていく時に、どう組織化をするか。それは我々の中でできてくるのではないかと。それより前段で言っていますように、この次の会議の中では交通網の見直し、あるいは交通網がきちとしない限り、定住に則しないのではないかと、私はこのように思っています。

【座長】今日は残念ながら交通分野の委員の方がお見えになっていないので、ちょっとお伺いしたいところなんですけど。これは全分野に関わることですね。特に観光もそういう意味では大きなウエートを占める部分だと思うんですけど。その点、ご意見があれば。

【委員】観光の分野で言いますと、非常に市場の状況に左右されるというのは、今回の震災を含めてよく分かったと思うんですが。逆を考えれば、情報の発信と言いましょか、そういった形を逆手にとって、良い意味でそういった手法を考えれば、逆も真なりかなと。それにはやはり固定した観光資源がなくてはならないということ。それからその観光資源を如何にアピールしていくかというのは、例えば1カ所でやるよりは2カ所、2カ所よりは3カ所のほうが良いと思うし、またいろんなPRの仕方というの也被えられるではないのかなと。そういう協力体制ですね。

福祉の関係なんかを聞いていますと、大変安心してこれから歳をとって、医療体制を見ても安心していただけるのかなと思いますけど、現実的には現場としてはなかなか本当に……。文書にすると、先ほど委員が言われたとおり「確立できております」と言う、言葉の表現でいうと、確かにそれは確立できているのかなと。でも、中身は伝わってきませんよね。実際問題として現場でどういう形になっているか。現場の意見だとか、わがまを聞くという意味でなくて、やはりそういったものもある程度吸い上げられるような状態で考えていかなければならないと思います。

【座長】ありがとうございました。他にいかがですか？観光という意味でありますか？

【委員】観光という意味で、先ほど言ったように交通網ということで、今はレンタカーで空港からそれぞれの空港に行くというパターンなんですけれど。そういう意味では、私共の町の女満別空港があっても、まちと例えばJR駅とか道の駅とかが分断された状態で、飛行場に用のある方がそこに来て、そこからレンタカーなり網走の直通バスとかを利用してそれぞれ行かれるんですけども。僕らも地元の人間として、朝日ヶ丘のパークゴルフ場だったり、町内のいろんな所があっても、来た方がそこへ行く手段がないんですよ。また、それを維持するだけの需要も見込めない、そこにそういうものをどの程度置けるか。そういう意味では、先ほど言われた枠を広げて、定住自立圏の中の大空町と網走市との連携がより強化になるとか、それから東藻琴地区の芝桜公園に女満別空港から行けるようになるとか、そういう意味での確立がされると、来た方も便利になれば、また来てもらえるというようなことで、そういうものは我々も歯がゆい面もあるということも現実にあります。

【座長】この件に関して、いかがですか？

【委員】女満別空港の重要性というのは前から議論されています。実は今、大問題が起きて、女満別・東京線の飛行機のことなんですけど。これが今、日本航空が3往復とエアドゥ・全日空が2往復で、5往復が飛んでいるんですけど。特に日本航空が破綻状態ですから、大きい飛行機を全部処分しちゃっているんですよ。もう小さい飛行機になっちゃっている。当然女満別空港もそういう小型化になっちゃったと。当然提供座席数も少なくなりました。その中で、8月、9月の搭乗率が96%なんです

よ。96%ということは、殆んど席が取れないんですね。特に採算ベースで、日本航空が特にそうなんですけど、今、再生問題でいろいろやっていますから、再生するためには効率を良くしなければならぬと。高い運賃のお客さんを優先すると。というのは個人なりビジネスなんです。旅行会社に下ろす席数が、(航空会社は)言っていないんですけど、本当に小さくなっちゃった。それとビジネスで行くパック旅行は殆んど取れないんですね。これが旅行会社に言わせても、「席が取れなくて、どうしようもない」と言うんですよ。

これは女満別空港だけでなく、釧路空港もそうなんです。釧路空港もやっぱり5往復なんです。帯広空港は去年エアドゥが参入しましたから、エアドゥが3往復と、JALなんかは負けないで4往復を維持していて、7往復あるんですよ。ですから、まだ枠はあるんですけど、釧路空港と女満別空港は今、とんでもないことになっちゃっている。

これからの時期は端境期になりますから、当然搭乗率は下がりますが、これがまた流氷観光でどうなっていくか。ですから、流氷観光で今いろんなことを組んでいる旅行会社は、「席がどうしようもない」と言っているんですよ。ですから、いくら地方で情報発信なりやっても、直行便が取れないんですね。千歳空港に全部集中していますから、そちらに行けば席はいくらでも取れる訳です。そうすると、やっぱり札幌周辺なり富良野とかは、まだ良いんですよ。ところが、千歳空港から乗り継いでこちらに来るかと言ったら、今度は小さなプロペラ機の50人乗りなり、せいぜい70人乗りなんです。

ですから、そういった面ではやっぱり日本航空が自立するようになって、もう少し大きい飛行機を入れてやれるような状況にならないと、もう道内の観光客は伸びないんですね。私のいる施設で、今年の上期の旅行会社の扱った人数を集計してみたら、今まで東京・関東周辺から来るお客さんが全体の半分だったんですよ。ところが、それが半減したんですよ。本当に48%だったんですよ。そういうような状況が今出ているんですよ。これは市町村なりが先頭になってやるべきことはあるんでしょうけど、なかなか今の日本航空では対応してくれない。そういった大変なことが今起きていまして、これから(流氷)シーズンにかけて、どうなってくるかですね。観光関係者は「不安で」ということなんです。そのような状況です。

【座長】厳しい状況ですね。それは私もなんとなく感じてはいたんですけどね。農大の関係者は「チケットが取れない」と大騒ぎをされていて。実は私も来月そうそうに母親の3回忌で行かなければいけないんですけど、(チケットが)取れない。これは切迫した問題で、「何とかしてくれ」と大騒ぎして、やっと確保できた。その代り女房の分が取れなくて、私一人で行ってくる。そんなことが今後、こういう状況がどんどん厳しくなっていくと、観光だけでなくして、いわゆるここに定住されている方々に直

接大きな影響が出てくる。しかもそれは遊びでない部分で出てくるんじゃないかと、ちょっと私も空寒い思いをしているところなのですけど。まず、これをどのように改革すべきだろうか。恐らくビジョンというのは、そういった問題を直ぐに取り込めないということが当然あるのだろうと思うのですけど。私はビジョンを作るにあたっては、従来の形のものをちょっと手直しして、「こうすれば何とかできますよ」というようなレベルでは、もうなくなってきている気がしてしょうがないんですね。やっぱり抜本的に、例えば今の交通の問題だったら、これは地域の中の交通網の問題もあります。それからこちらに来るという交通の問題もあります。これを従来の手法で解決しようとする、どうしても限界がきます。そうすると、大幅な大きな抜本的な、もう海路で行くとか。海を高速艇で行くとか、そういうのはここでは造れませんけど。そういうビジョンというか意見を、私は出す機会を設けたいなと思っているのですけどね。必ずしも空だけでなくして。

外国へ行ったら、ある首都圏域の中心街部分の半径何キロまでは車を入れないで、その代り殆んど路面電車がチューブ状に動いている。そういうことでそこに住んでいる人が殆んど迷惑を感じていない。私は素人ですから経済的に費用面でどうなのかというのは、無責任なことしか言えませんけれど、費用、予算、可能性を考える前に、こういう現状を打破するためには、こういうことを今後は考えなければいけないんじゃないかということ、少し皆さんからも。だからビジョンに直ぐ盛り込むことはないかもしれませんが、今言っていることが、例えば20年、30年、40年後の新たなビジョンを作るという時に、入って来るのではないかと。今言っておかないと駄目なのではないかなと感じはしているのですけど。そういう意味では皆さんのご意見というのは、身の迫る思いをしながら、非常に重要な観点だなと伺っていたのですけど。いかがでしょうか、他に？

私はある意味では、委員の皆さんの稔り多い、成果は別として、意見を本当に真剣に固めるという意味では、4月か6月の次年度の懇談会に意見を集約していただければと思うのですけど。そのためにも、例えば、こういったことはできないでしょうかね？各分野、産業分野などいろいろありますけど、分野、分野で、どういう形でやれば良いのか、具体的にはちょっとイメージできないんですが、両市町と各分野の人たちが集まって、ここに出す意見を集約するというような場を設けて、皆さんから意見や議論をいただくようなことも必要になってくるのかなと感じがするのですけど。もちろん委員の皆さんはお忙しい方ばかりですから、そればかりやっているという訳にはいかないかもしれませんが。もし、そういうことが、全分野でできないにしても、「俺のところの分野はやるよ」ということであれば、事務局としてもそれをサポートするようなことを考えていただければ、有難いと思うんです。せめて議論する場所の提供とか、議論するための資料など、行政で手に入れられる範囲のもの。秘密を守ら

なければいけないことも当然あるかもしれませんが、できる限り資料とかデータを出して、議論をしていただくというようなことも、サポートを事務局としても考えていただければ良いのではないかなと思います。

聞いたところでは、このビジョン懇談会は道内でも何か所かやられていますけれど、あるビジョン懇談会では、委員の方たちが分野ごとに集まって、関係者を集めて、大いに議論して、それを委員がまとめて、この懇談会に持って来るというようなことをしているところもあるやに伺ったものですから。組織の中でも良いですし、そういったようなことができれば、より活発な意見交換もできるのかなと思いますけれど。是非そこらあたりをお願いしたいなと思っております。

他にいかがでしょうか？これだけは確認しなければいけないとか、言っておきたいというようなことがありましたら、どうぞこの機会です。

資料2「意見要旨及び考え方」をよくご覧になっていただいて、ビジョンの参考資料に今まで出た意見が整理されています。

【委員】勉強のためにお訊きしたんですけど、今回の定住自立圏の関係で、遅ればせながら総務省の（ホームページから資料を）引っ張り出してきたんですけど、私共のように1市1町の複数（の自治体）がありますけど、（総務省の資料を）見ると、合併後の1市圏域での定住自立圏構想も可能だと書いているんですけど、これがよく読んでも意味が分からないものですから、もし事務局のほうで分かれば教えてもらいたいと思ひまして。合併1市圏域の定住自立圏構想も可能ですということなんですけど。

【事務局】私もその辺は詳しく勉強はしていないんですけど、合併した1市が定住自立圏の宣言をして、その場合は協定に代わるものとして、定住自立圏形成方針を策定するといったことになっておりまして、実際にやる中身とか特別交付税の措置などは同じ形になっております。

それが合併後の市（の圏域）でやるか、あるいは合併していなくても、中心市と周辺市町村と（の圏域）でやるか（の違い）ということで、中身は同じです。

【座長】私もこのあたりは、よく勉強していないので、次回までには整理して、委員とは近くなので、分かった部分についてはお知らせしますが、事務局を通して皆さんにも配信したいと思います。

これは効率とか費用対効果ということを考えると、広域圏でということは当然考えられることなんですけど、その中身については、考え方というのはいっぱいあるんですよ。それで大揉めに揉めているのが大阪のほうの例だろうとは思いますが。道州制のようなやり方をやりたいということと、片や大阪都構想でやりたいと。その目的は同じなんですけど、やり方、手法は様々で。何が成果が上がるのかと、やってみないと分からないということで、選挙に訴えるというのが今の状況なんだろうと思うけど。そこまでことを荒立てなくても、大阪だからというのではなくして、私は大阪

と同じようなことが、内面的にはどこの地域でも起こっていると思うんですよね。表面的には何もそういう事柄は起こっていないかもしれませんが、それぞれの地域の人たちの、苛立ちにも似たような考えというのはあると思うんですよね。やっぱりそれに先だってこのビジョンを対応させていくと。そのためにも、私はかなりダイナミズムのあるビジョンを今後策定していかないと、応えられないのではないかという感じがするんです。法律をきっちり守りながらやるというのは、当然重要なんですけれども、私はある程度法律を無視した意見交換というのも重要になってくると。重要というよりそっちのほうが大事になってくるとは思っています。

【委員】私はここに初めて来る時に、この定住自立圏構想は2次合併かと思ったんですよ。というのは、大事なことなんです。東藻琴と女満別が合併して大空町になりました。これで済むということには多分ならないでしょう。斜里3町でも分かりません。そのようなことを考えますと、この共生ビジョンのような懇談会、事業計画、予算を、両町あるいは合併する以前に住民に周知して、それで合併していくというのが、本当に大切なのではないかなと思いますよ。その意味をもって、共生ビジョンで夢を語るということは、早くからやっておくべきだと私は思っています。

【座長】合併の話については、行政のほうは言いづらいでしょうから、あるかないかは私も知りませんが、いずれにせよ50年、100年というスパンを考えたら、このままでは済まないです。それぞれの市、それぞれの町の産業が、このままの状態では済まないです。医療にしても何にしても。だから委員が仰るように、大いにその部分についてはいっぱい議論していくべきだというのが重要だろと思います。極端に言うと、どういう合併をしても、あまりうまくいっていないというのが現状で、オホーツク圏域18市町村全部が合併して、広域圏でオホーツク都か市にして、18区とか23区にして、そうすると交通網も充実するでしょうね。「高速道路を作ります」と言っても、それは法律的にも何も問題が起きてこないですからね。1や2市町村でやると、「高規格道路とか高速道路なんて駄目だよ」ってなるでしょうけど。網走がオホーツク都の中心都市になったとしたら、交通の便に不便を感じる人たちのために、高速道路を作らなければならなくなる。そういうことが今後ないとは、私は絶対言えないと思うんです。それこそ2次合併、3次合併、4次合併というところまでいかどうかは分かりませんが、その時に各産業分野が今のような状況の中で、どう生きていくのか、どう再編成していくのか、これも凄く重要なことで、医療にしてもそうだと思うのです。

先ほど委員が仰ったように、「(救急医療体制が)これで確立しました」という意識を持っている市町村は凄く多いです。斜里町でも新しくなった町長から「これで安心ですよ」という説明を、私は受けましたのでね。ここで、委員から話を聞いていたから、「そういう話でないんじゃないのか」ということを言ったら、凄く嫌な顔をされま

したけどね。だけど、嫌は嫌でも現実はちゃんと踏まえなくてはいけない。実際見定めなければいけないというのはあるんじゃないかと思います。そういう意味では忌憚のない、将来を見据えた議論というのは大いに、ここでもやりたいとは思っているんですけど。

いかがでしょうか？ご意見あれば？

【委員】共生ビジョンの内容そのものではないんですけど、ここに共生ビジョン一覧に事業がたくさんありますけれど、これらの事業というのは、定住自立圏構想の中に入っていないけれども、元々単独でやろうとしていた事業もたくさんありまして、これについてはいろいろ補助制度がたくさんあったり、全く単費だったりしますよね？これが定住自立圏構想に位置付けされることによって、国や道が何らかの助言や支援をすることになっていて、一番はっきりしているのが、特別交付税で中心市が4,000万円、周辺町が1,000万円が包括的に入っているということになってはいますけど、ここに書いてある事業というのは、ここに入ることによって、例えば補助率が少し上がるとか、そういう財政的支援というのはないのですか？

【事務局】 ないです。

【委員】 そうすると、包括的に4,000万円とか1,000万円が入ること以外は財政的支援はないとか、あるいは従来だったら補助事業でも優先順位が低いので補助金はもらえないけど、ここに位置付けされることによって補助事業に優先的に拾い上げてもらえるとか、そういうことも全くないんですか？

【事務局】 明確な言い方はされていないんですけど、国のほうではどこまでが信用性があるのかというのは問題なんですけど、ただ採択の優先順位については、当然優先順位が高くなるという言い方がされています。例えば起債を借りるにしても、いろんな制限がございますね。そういう部分でも有利な面としましては、合併した町もそうですし、今回の定住自立圏を結んだ市町というのは、そういう面では優先順位を上げていただくことができます。

【委員】 ここには載っていない、これからの話になるんですけども、これは現実としてできるか別として、例えば今後、災害対応をいろいろしなければならなくなった時に、行政が第一義的には災害対応をいろいろやるんでしょーけど、それをバックアップする組織として、防災のボランティアがあつたりいろいろしますよね？それを組織立てをしようと、それにもし仮にお金がかかったとして、そういうものは従来補助制度も何もないんですけども。それぞれのまちが単独で、防災ボランティアを使って、自分のまちの防災をすれば、それで良いんですけど、広域的にやるような必要があるということになりますと、例えば大空町と一緒に組織化して何かやろうと、そこにお金がかかると、そうするとこのところに従来補助制度がないんですけど、ここに（ビジョン）に入れて、補助金がいくらももらえて、地元の負担が減るとか、そう

いったことは考えられるんですか？それも考えられないんですか？それは包括的な特別交付税に入っているから、その中でということになるんですか？

【事務局】 そういう補助制度があるという前提での話ですか？

【委員】 補助制度がない場合は駄目だと？元々ある補助制度があるものについて、優先順位が高まる程度にしかないということですか？

【事務局】 はい。

【委員】 分かりました。ちょっと参考までに聞きたいと思ったものですから。何か新しい事業を考える時に、お金がかかることであれば、なかなか厳しい話になりますね。それぞれのまちが単独で予算を組まなければならない話になっちゃうので。

【座長】 そうですね。

いかがでしょうか？今のようなお話でも結構ですけども。事務方のほうで答えられないことがあったら、その次の機会にちゃんとお答えするというようなことで、何でも結構です。

そのようなことを次回あたりに、たくさん持って来ていただければと思うんですね。「この際だから確認しておこう。どうなんだろう？」と。予算が付いてないものについては、優先順位も何もあったものでないというんだったら、「それはおかしいんじゃないか？」と。要するに事柄が重要なのであって、「予算が付いているか、付いていないかが問題になっていることは、問題なんじゃないですか？」というようなことも、私は意見として、それが確認できれば、言えるようになると思うんですよ。よく分かっていないから一応訊いたら、「あなた分かっていないですね」という話になるのが嫌だから、何も言わないというのは、一番もったいないですね。私なんかはどうせ分からないから、ここに来て教わろうと思っているだけですから、大いにこの場を利活用していただいて、意見交換していきたいと思いますが。

他に、いかがでしょうか？

【委員】 座長が言われたので、遠慮なく恥を忍んでお訊きします。ベースは私もよく理解していないのかなと思って。定住自立圏というのは、要は営農集団化してしまうということですよ？お互いにやっているものは集約しようと。新しく魅力あるものを作るためには、お互いにやっ払いこうということで、ベースはよろしいんでしょうか？

出発点が違くと、ビジョンの方向性も違ってくると思うんですよ。何か聞いていると、「要するに営農集団化していこうや」と私は思っているんですけど、ちょっと違いますか？

【事務局】 定住自立圏構想は、いわゆる今までの市町村合併とは対極的な政策ということで、集約するという考え方ではなくて、お互いにないものを補完し合うという考え方に立っています。網走にないものは大空町のもので補えないか、逆のことも考える

ということで、両方に同じような施設があるから一本化しようという考え方はないです。逆にそういったものはお互いに相互利用を促進して、交流を深めていくという視点に立っておりますので、市町村合併と対極的な立場に立っていると考えていただいたほうが良いかと思えます。

【委員】そうすると単体の市町村ではなく、圏域総体として確保するという事なんですけども、どこかで分岐点が出てくると思うんですよ。図書館にしる、福祉にしる、医療にしても、それぞれのものが100%に満足を高めていけるかというのは、今のレベルではそうかもしれませんけど、これから（この計画は）5年間ありますけど、単体で集約しないで、やっていけないことが出てくるから、連帯し合っていこうというふうに理解しているんですけども。別に集約だけでなく、そういうこともあり得るのかなと思っているんですけど。

【事務局】それはあり得ますね。

【座長】集約とか営農集团的と言うと、どうしても市町村合併がチラついて。「そうでないんだ」と。「対極にあるものだ」と。

概念は確かに現時点ではそうなんですけど。私は、概念そのものは実態に合わせて変わっていかざるを得なくなってきた時には、集約化も進んでいくし、それこそ合併とかも当然出てくる。現時点ではそういうことだということですよ。だから、あまりその部分でそんなに固く考える必要はなくて、「いずれこの部分はしょうがない」というような考えでも良いのではないかと思うんですけど。一緒になるしかないとかね。いかがでしょうか？

【委員】ただ、既存のものを統廃合はしないけども、24年度以降の事業をみんなで何か考えていった時に、役割分担ということを考えるのであって、同じようなものを両方で作る考えが今後あったら、どちらか地域の特性に合った形でそっちに作って、反対側は自分のところの地域の特性に合った別なものを作ろうというようなことを考えて、それを全体で作ることによって、住みやすいまちにして、定住性を高めていこうと。そういう視点で考えていこうということですよ？

【座長】既存のものは、別にそれぞれのファンクションごとに使っていけば良いと。ただ、同じ病院であっても、お互いに持っていない部分とか持っている部分を総合化し合おうよというのが、この基本なんですけど。今後作っていく時には、予算化して共通で使えるようなことも作っていこうではないかというのがビジョンの主旨ですね。

【委員】先ほど委員から発言がありましたが、飛行機が小型化してきて、なかなか乗れないし、自由に使いづらいから、住みにくくなると、あるいは観光客も来にくくなることによって、観光産業があまり発展しなくなって、職場がなくなって、定住性も低くなっていくということなので、それを何とかしようという時に、単独の町が考えるのではなくて、飛行機を大型化したり、飛行機の便を良くするために、大空町と

網走市が何をやって、それを引っ張ってこようということを考えなければならないことになる訳ですよ？から凄く難しいというか、どういうことをするために、相手は何をして、こっちは何をして、役割分担して、全体でやろうとしていることが実現できるかと。そういうことを考えていくことになる訳ですからね。なかなか一朝一夕にはいかなくて、難しいと思いますけど、今後事業を考える時にはそれをやると。そして、その結果をここに載せていくということを、我々はこの5年間、この計画が終わるまでの間に積み重ねていくということですよ？

【座長】正に仰るとおりだと思います。だから、そういった視点で各分野で「じゃ、うちの部分でどういう考え方ができるのか」とか。やっぱり双方の町と市が持ち合って、整理をしなければならなくなってくるんですよ。「俺たちはこうなんだ。あなたたちはこうだ」となると、勝手にやって、ビジョンを作る必要がなくなってしまう可能性もある訳ですから。私なんかから見たら、合併したくないのだと思うんですよ。機能を合併しないと、やっていられない部分があるのではないかと。合併したくないから、こ「この部分とここの部分をお互いに補完し合おうよ」というようなことを、当面はこうなっているんですけど、私は考え方として、どうも歪だと思うんです。ずっといくと、そんな調子の良い考え方で進んでいけないと思いますよ。これを批判する訳ではないんですけど。私の立場でこういうことを言うてはまずいんですけどね。だから、これは駄目だと言っているのではないんです。そういうことも踏まえながら、どういったビジョンが作れるのかということも考えていかなければいけない。そうでないと、あまりリアリティ感がないんですよ。何か差し障りのない部分だけでくつついていこうというのは、私は無理だと思いますね。双方に我慢しなければいけない部分も出てくるでしょうし。そこで初めて良さというものが、それが具体的なビジョンだろうと思うんですよ。

【委員】観光という立場で参加させていただいているんですけども、42ページの防災なんかで見ると、網走地区消防組合の網走の部分と大空の分を挙げていますよね。実際に一緒にやって動いている事業ですよ。一緒にやっているものは一緒にやっているものという位置付けだとか、一つの町だけでできない、また大空町だけでもできないものを分けて、今後この地域でどんなことをやっていこうということを作り上げていく考え方で。(実際に) やっている訳ですからね。例えば、下水道処理のことについても、大空町は網走市に委託料を払って、そこで処理してもらってやっていますから。そういう実際にやっているということを、町民・市民の方に、だからこうやっていろいろなものが軽減できているのだということを積み上げていくことが大事なんじゃないかと思うんですよ。詰めていくと行政は予算がなければ何もできないということになる訳で、私もよく分からないですけど、福祉といっても、私は観光だから福祉のことは分からないという前提で質問させてもらおうと、網走の場合、保育所の管

理運營業費は1億6,000万円ぐらいかかっていますよとなっていますよね？大空町は、豊住と東藻琴で3,000万円なり1,400万円なり、保母さんとかの人工費だと思うんですけど、本当に連携して地域でコストを下げられることだとか、分野ごとに詰めて、市民や町民に分からせないと、何のために私たちはやっているのか、訳が分からなくなってしまうので、その辺を一つよろしくお願いします。

【座長】正に今、仰ったとおりで、市民、町民をなくして、行政も暮しも何もないんですよ。その主体である人たちが分からないというのでは、協力も連携も得られる訳がないんですよ。そこらあたりをきちんと伝えていくことはもの凄く重要な点ですよ。あと、どちらがお金をかけているとか、少なく済んでいるということではなくて、多く出しているほうは出しているほうで、「これだけ協力してくれているので、このレベルで済んでいるんだ。この事業ができてくんだ」というようなことで進んでいかないと、恐らく事業として成り立たないと思うんですけどね。

だから、住民にもう少しこういったことを、きちんと伝えられるようなことも、少し考えなくては駄目ではないのか。この部分は凄く重要なことだと思うんですね。「何やっているんだ？誰がやっているんだ？各町から委員がいっぱい出ているらしいけど」、私が町民なら「あいつら何やっているんだ？」とかね。「言っていることが、よく伝わってこないし、勝手なことを言っているんじゃないかしら？」とか、そう思っている人もいるかもしれないですけど。そうすると、雰囲気的にも進まないでしょうね。だから、そういったことも少し考えたほうが良い。

例えば、ビジョンの中にそういった事業関係の候補というのは、双方の町で予算として必要なんだと。やっぱり住民の積極的な理解と協力は、どの分野でももの凄く重要です。だから、それを進めていくことも一つの重要な事柄になるのではないかと。ごく当たり前の話なんですけどね。

【委員】今、委員と少し話をしたんですけど、今日で4回目ですけど、こういう場でたまたま隣に座って、自分の今までの経験の中からお話をしているだけであって、網走商工会議所と大空商工会との意見のすり合わせを全くしていないんですね。それで、来年の4月開催に向けて、実際に2つの組織の中で何ができるか、「とりあえず事務局レベルで何か協議でもしましょうか」という話を今、したところなんです。その結果が良いほうに出るか分かりませんが、そういう場を持ってみたいなど、今考えているところです。

【座長】大変ありがとうございます。そういう動きが、私は必要なのだなと思っているんですよ。商工関係だけでなく、どの分野でもね。

一番、比較的そういうことを意識しないで言わなくても、進めざるを得ないのが医療分野ではないかと思うんですけど、いかがですか？

【委員】この共生ビジョンからは、ちょっとはずれるんですけど、今年の12月2

0日に3回目の救急医療フォーラムというのをやります。今回のテーマは「救急医療における自治体の役割」ということで、1市4町の首長さんが全部出ることになっているんですね。今、馬場町長さんが「これで確立して安心している」と聞いたんですけど、これから始まる中で、自治体がこの救急医療を安定的にさせるためには、何をしないとイケないかということ、フォーラムという形の、聴衆の前で明らかにしようと思っているんですね。

医療のことだけになりますけど、何回も話しますけど、いろんなことの最終的な結果の不利益は、全部住民に被っていく。その住民に対して情報を与える。情報を与える時に、誰がそれに対しての責任者か、あるいは権力者かということからいくと、自治体と医療機関だと思っんですよ。そこにいろいろな利益を被る、不利益を被る住民がいる。今までは、例えば救急医療で問題になると、医療機関と住民の中のトラブルに終わって、そこに自治体は入ってこないんですね。自治体は自治体でここに書いてあるみたいに、「市立病院でないから、行政指導はできないから」という形で逃げられると、今のたくさん救急医療が潰れていって行くのが、みんな同じ条件で潰れていくんですね。みんながバラバラにやっているからなんです。タダ飯でないけど、それをずっと見てきたので、この斜網地区の救急医療体制だけは何とか潰さないで、安定して継続させたいということで、ずっと前からフォーラムをやって、住民をとにかく引き込むということ。ただ残念なのは、パブリックコメントでもそうだったけど、一つの意見しか来なかった。救急医療フォーラムでも1回目は260名、2回目が290名で、多分同じようなメンバーだと思っんですよ。関心を持っている人は来てくれるけど、トラブルを起こすような人は「そんなものには一切来ない」というね。一生懸命こちらのほうはやろうとしても、聞いてもらいたい人は来ないということになるのだろうと思っんですね。だけども、やっぱりやり続けるしかないという気持ちです。

【座長】それは、どこの分野でもそうだろうと思っんですね。私も学生を教えていますけれども、問題を抱えている学生の親が来て欲しいんだけど、それは来ないで、問題の全くない、良くやっている子の親がしょっちゅう収穫祭だの何だのと来るといふ。本当は来て欲しい人には、しっかり来て欲しいなと思っんですけど。

ただ、行政側で町長、市長は「住民の信託を受けてやっているんだ」ということを言う訳ですから、案外その信託が本当に届いていないのではないかと。「これは選挙だけだ」というような意味で言われているような気がしてしょうがないんですけどね。だけど本当の意味で信託とか考えなければ、これはビジョンなんかは進んでいかいという感じがしますけれどね。

そういう意味では行政は、どの町も、斜里町もそうですけど、大空町も網走市も、行政マンが随分と変わってきていると思っんですけれどもね。どこの町の行政マンとも付き合いがあるものですから。それがちっとも変っていないように感じる。また、

もどかしいような思いを持つというのは、それは正直言って、市長の責任なんですよ。そういう言い方をすると、申し訳ないですけど。何も事務方には「同意しろ」と言いませんので。他いかがでしょうか？

【委員】観光の分野で言いますと、いつも考えていたんですが、こういった分野ごとに分かれるということも確かに良いんです。私なんかはどちらかと言うとあまり知識がないものですから、分野ごとに集まって分野の中で話しちゃうと、どうしても分野の部分だけで、内へ内へと入っちゃうと思うんですね。私がこういった会議で期待しているのは、そうではなくて、全然目線の違った観点から、観光についてどう見られているのか。あるいは、どう考えておられるのかということも知りたいし。全く違った目線で観光の分野を見てもらったほうが、今後の観光にはヒントがあると思う。だから観光を趣味の人に集まってもらっても、先ほど委員が言われたとおり、同じ人しか出てこない、同じ意見しか出てこないというのが大概なんですよ。これからの観光というのは、やはり同じ観光の分野が集まったら、大きい小さいか、多いか少ないか、そういうものに限られてしまうこともあると思うんです。

だから、これからの観光というのは、どういったものを目指していくのか、それこそ想定外の観光を考えていかないと。それでビジョンの中で、できるできないは別として、そういったものがあっても良いのかなと期待はしています。

【座長】観光に関して言えば、今までは農業、漁業、工業、商業、観光という横並びで、いろんな産業の内の一つという見方が、従来の見方だったのだと思うんです。私は地域によっても違うんでしょうけど、この地域は観光というのは、いわゆる牽引車というんですか、トータルインダストリー、いわゆる総括するというんでしょうかね、農業も漁業も全部取りまとめて、商業にしても全部に関係するんじゃないですか。だから、そういうような視点で、今後広域的に協力し合えるところと補完し合うところというようなことが考えていかれなければならないと思うんですね。農業にしても観光に全く関係ないんじゃないかと、観光の衰亡によって農業がどう変わるかというのは、大きな課題になってきていますよね。それが原材料となって、例えばお土産とか宿とか食事とか加工とか、それを売るというのは商業とか、やっぱり観光の位置付けが今後地域の活性化に大きくつながっていく。昔の物見遊山の観光で、何人連れてきた、何人運んだとかでなくして、まちづくりにどれだけ関わっているのかということがよく言われる。そうするとこのビジョンというのは、大きく意味のあるものになってくるのではないかと、私は思っているんですけどね。

ただ、私が有難いと思うのは、先ほど委員さんたちが「ちょっと話し合ってみようか」というふうに仰った。それは、我々には分からない分野の事情というのがあって、それを集約して「こういった問題があるんだよ」というのをこの場で出してもらいたい。観光でも、やっぱりそうだろうと思うんですね。我々の計り知れないような部分

がある。それを調整して、大いにここで出してもらおう。それは社会福祉にしても同じだろうと思うし、教育にしてもそうだろうと思うし。医療は、委員は積極的に自ら打って出て、どんどんビジョン作りをなさっている。それを大いにここで出していただいて、このビジョンを作る糧にしたいというふうに思っているんですけどね。

【委員】ここに載せている事業というのは、基本的に行政の予算に載っている事業ということになりますよね？先ほど委員さんたちが言われていたような商工会での話し合いだとか、観光での話だとか、福祉なら社会福祉協議会同士が話して「何かやりたいね」となった時に、市の予算が絡まないものは、ここに全然載らないということになるんですよね？連携し合ってやること自体は凄く大事なことなだけけれども、市の予算が絡まなければ、そのこと自体はこのビジョンに載ってくる話にはならなくなるんですよね？

【事務局】いいえ、そんなことはないです。

【委員】予算額ゼロで載ってくるんですか？

【事務局】そうです。予算額はゼロになります。ただ、取組自体は取組内容を載せることになります。

【座長】もっと言うんなら、ゼロでも良いんですよ。載っかるということが大事で、次年度にもっとビジョンをきっちり詰めていけば、予算を付けるとか、もしくは予算要求するとかといったようなことになっていくと思うんですよ。そういう意味で、各分野でそれぞれの事情を踏まえながら、意見を集約しながら、この場に出していただいて、将来的には重要な事業として予算化していくようなことも、ここでビジョンとして取りまとめていくというようなことも是非考えたいと思うものですから、来年からの意見交換というのはもの凄く重要になってくるんじゃないかと思っているんですけど。事務局としては「あまり言わないでね」という気持ちあるかもしれないですけど。そりゃ事務局は行政マンとして事務局の立場がありますからね。「そんなのでは駄目だよ」と言えば済むことなだけ、なかなかそう言いづらい立場でもあるでしょうから。ここだったら「駄目だ」って言ってもいいんじゃないですか？お互いに好きなことを言って、行政には手足縛って「黙って言うこときけ」という話にはならないと思う。お互いに意見交換というのは大事なことだろうと思います。

【委員】先ほど事務局からお話のあった、合併とはあい対するものだという事なんですか？魅力あるものをこの事業の中で作り上げていくと、今あるものを話し合っって事業化していくということが目的だとすると、いわゆる市町村合併も、平成の大合併が終わってなかなか進まない。総務省もこれからということもあるんでしょうけど。たぶん落とし所は、総務省はそんなところを考えているんだなと、私自身は考えているんですよ。だから、集約しないで新しいものを作り上げていくとなれば、「5年後にそれをやめることができるのか？」ということになってくると思うんですよ。そ

ういう覚悟も必要な中でやっていかないと、逆に5年目、6年目に住民サービスの低下ということにつながっていくこともあり得るのかなと思っているんですけど、その辺がどういうふうを考えているのか分かりませんが。少し怖い部分があるかなという気がします。

【座長】 そうならないようにこのビジョン懇談会に期待するところが事務方にもあると。要するにもっと事業を発展的に実質化していくような意見集約をここでしていきたいというのが、恐らく事務局の考えだろうと思います。少し答えたほうが良いんじゃないですか？

【事務局】 ありがとうございます。いろんな意見をいただきました。私たちも今回ビジョンを作るにあたりまして、この間、担当課長が全部集まって、こういう協議をさせていただきました。今仰ったとおり、当然私たちの仕事は終わることなく、今後もどんどん進んでいく訳なんですけど、ただ、この事業のために初めて顔を合わせた課長さんたちもたくさんいて、この間は幾つかの分野が一つのテーブルに集まって、いろいろお話をさせていただきました。そういう意味では私たちの仕事というのは、大空町は合併してまだ5年目ですけど、両町が進めなければならない部分もまだまだあります。ただ、今の世の中では周辺と連携することも、一つの大きな仕事だと思っています。

先ほどありました空港の問題にしても、周辺の市町に呼び掛けながら国や各航空会社に要請にも行っていますし、また、網走市さんとは非常に連携をしながら海外チャーター便だとか、今国内のチャーター便も何とか維持したいということで、国内の航空会社にも要請に行ったりとか、やはり一つの町ではなかなか得ない、いろんな事業が絡んでいます。そういう意味では、合併ということもありましたけども、そうではなく周辺とも連携して、より地域に利益のあるものは頑張っている方々に声をかけていくというのが、これからの行政マンに課せられている課題だと私たちは思っています。

ただ、私たちも行革という中で職員の数が減らされながらいく訳ですけども、それを補うものは隣の町と連携して、良い知恵を絞り出してやっていくと。自分一人ではなく、二人でやったほうがもっと良い知恵が出てくると私たちは思っていますので、今回のこの機会は、自分たちの身にとりましては、非常に大きな人的な友好関係を深めることで益々仕事が良く（なっていくと）。ただ、なかなか一足飛びにはいきませんが、これを一つの礎といたしまして、今回改めて交流できたことを重要だと私たちは思っておりますので。私たちもなかなか出来の悪い部分がありますが、少し長い目で見ていただいて、私たち自身も変わっていきたいと思っていますので、ご協力のほうをお願いしたいと思います。

【座長】 ということで、事務局から今後の意気込みを聞けたということで。今日は

6時半から8時ぐらいを目途にしていたんですけど、まだご意見のある方はお伺いしますけど。

大いに次の懇談会でたくさん実質的なご意見が出ることをご期待して、今日はこれで懇談会を閉会したいと思います。本日は、どうもありがとうございました。